

特別支援教育における「実践知」の創造・発信と 地域支援ネットワーク強化プロジェクト

－システムの質の検証とさらなる発展に向けて－

研究代表者：古井克憲（教育学部 特別支援教育）

共同者 教育学部：武田鉄郎・山崎由可里・竹澤大史（特別支援教育）

障がい学生支援部門：森 麻友子

附属特別支援学校：武内正晴

附属特別支援学校（附属小学校内通級指導教室担当）：尾崎由美子

①ICTを活用した特別支援教育コーディネーターフォーラム
の開催

発信・還元

特別支援教育における「実践知」の創造・発信と
地域支援ネットワーク強化プロジェクトの3本柱

地域支援

②地域の学校現場、附属小学校に
おける通級指導教室モデル事業
へのコンサルテーション

教育・研究

③学部生・大学院生・現職教員が
共同で行うアクティブラーニング

①特別支援教育コーディネーターフォーラム の開催

2008年から現在に至る。2022年度は7回を公開フォーラムとして実施。

- 第106回 特別支援教育におけるコンサルテーションとは
- 第107回 特別支援学校におけるセンター的機能の実際と課題
- 第108回 小学校の特別支援教育コーディネーター(通級担当者)の 実践から
- 第109回 発達障害等でトラウマを抱え、不登校等二次障害を呈している子どもの理解と指導・支援
- 第110回 発達障害のある人及び家族への支援について
- 第111回 教育現場でのスクールソーシャルワークの視点の必要性
- 第112回 生涯にわたる学びと自己実現・居場所・なかまづくりの試み

①特別支援教育コーディネーターフォーラム の開催：参加人数

	第106回 (4/27)	第107回 (5/25)	第108回 (6/22)	第109回 (7/27)	第110回 (9/21)	第111回 (10/26)	第112回 (11/30)	構成員別 合計
教 員	41	45	53	199	29	23	9	399
学 生	10	10	12	8	9	10	11	70
福 祉	3	2	5	3	5	5	9	32
その他	1	1	2	3	1	2	1	11
合 計	55	58	72	213	44	40	30	512

①特別支援教育コーディネーターフォーラム の開催：ビデオ会議を用いたフォーラムの質の検証

- 学生・院生
 - ✓新しい視点を知ることができる
 - ✓自身の学習、教育実践と照らし合わせて考えることができる
- 地域の参加者
 - ✓遠方でも興味・関心のあるテーマに参加できる
- 講演者
 - ✓実践や研究報告を通して情報提供・啓発ができる
 - ✓学校現場との連携・協働の可能性を検討できる

中期目標・中期計画との関連：地域の活性化及び地域社会のニーズにあった教育・研究の拡充

②地域の学校現場、附属小学校における通級指導教室モデル事業へのコンサルテーション

- これまで行ってきたプロジェクトメンバー各々による学校現場へのコンサルテーション
 - ✓ 主に和歌山県内の小・中、特別支援学校等でプロジェクトメンバーが継続的に実施
- 附属小学校内通級指導教室モデル事業へのコンサルテーションを実施
 - ✓ ケース会議への参加、担当教員へのコンサルテーションの実施

附属学校に関する目標（地域の公立学校の先導的モデル校としての役割を果たす）

②地域の学校現場、附属小学校における通級指導 教室モデル事業へのコンサルテーション

：特別な教育的ニーズのある児童生徒のケースカンファレンス

- 2022年8月2日 ケースカンファレンス
 - ✓大学院生・アドバンスプログラム生の観察実習等でケース検討
 - ✓インシデントプロセス法の実践機会
 - ✓実習校の教員の参加
 - ✓具体的な支援方法の検討
- 2023年2月6日 ケースカンファレンスの振り返りを実施
 - ✓8月のカンファレンスの経過報告：児童の状態及び支援方法の改善
 - ✓自身と校種の違う学校現場の現状と課題の理解

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」 「教学マネジメント指針」：「学修者本位の教育への展開」

「第4期中期目標・中期計画 記載事項以外の主な取組」(教育学部)：「全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現(令和の日本型学校教育)に向けた共同研究」

③学部生・大学院生・現職教員が共同で行うアクティブラーニング

：世代間交流を通じた講義の質の検証

講義（3回、計6時間）の実施

• 学部生にとって

- ✓学校現場で起こっている問題やその解決に向けた取り組みを学ぶことができた
- ✓教職及び大学卒業後の生活へのイメージをもつことにも繋がった

• 現職教員の学生・院生にとって

- ✓教員を目指す学生にも理解できるように資料を作成、プレゼンテーションすることができた
- ✓発表内容を考えることが自らの教育実践の省察として機能した

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」 「教学マネジメント指針」：「学修者本位の教育への展開」

本事業の今後の展開

- 引き続き、学部・大学院の教育課程の中で、教育・研究、地域貢献を一体化して行うコーディネーターフォーラムをこれからも実施していけるように検討する。
- 学部教育にも本事業の成果を還元できさらに発展できるように取り組む。